

2025 講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

初優勝

3等陸尉
坪根 菜々子

グランドスラム東京
出場権獲得



令和7年11月1日（土）から11月2日（日）までの間、千葉ポートアリーナにて「2025年度講道館杯柔道体重別選手権大会」が開催され、自衛隊体育学校から濱田尚里（はまだしょうり）1等陸尉以下8名（男子4名、女子4名）の選手が出場した。

本大会はグランドスラム東京2025をはじめとする国際大会の日本代表選手を選考する重要な大会であり、3名がメダルを獲得、グランドスラム東京出場権獲得の成果を収めた。

1日目、女子52kg級に出場した坪根菜々子（つばねななこ）3等陸尉は2回戦から出場し、優勢勝ち【有効（小内刈）】、3回戦・優勢勝ち【技あり（隅落）】、4回戦・優勢勝ち【技あり（背負投）】と順調に勝ち上がった。準決勝では中内選手（JR東日本）に対し、互いに決め手がなくゴールデンスコアまでもつれ込んだが、崩上四方固で抑え込み決勝進出を決めた。迎えた決勝では福永選手（筑波大学）との対戦となった。試合序盤から果敢に技を仕掛けるも4分間では決着がつかず、そのままゴールデンスコアに突入した。一進一退の攻防が続くなか、一瞬の隙をつき繰り出した小内刈が有効となり、悲願の初優勝に輝いた。

試合後、坪根3尉は「嬉しさもあるがホッとした気持ちの方が大きい。毎日チームメイトに相談したり悩んだり、また、新添コーチから技術面・メンタル面を教えてもらってきたので、今回結果が出せて良かった。決勝では心が折れそうになりながらも必死に前に出て勝ちきることができた。今後は52kg級で存在感を出すとともに、グランドスラムで優勝できるよう頑張る。」と力強く語った。



2等陸曹
吉岡 光

グランドスラム東京
出場権獲得

女子48kg級に出場した吉岡光（よしおかひかり）2等陸曹は、1回戦2回戦ともにゴールデンスコアにもつれ込む試合を有効で制し3回戦に進んだが、荒川選手（ミキハウス）を相手に技ありを取られ惜敗し敗者復活戦に回った。敗者復活戦では一本背負投の技ありで勝利し3位決定戦に進んだ。3位決定戦は畑山選手（明治国際医療大学）との対戦となった。互いに有効な技が繰り出せない試合展開のなか4分間が終了しゴールデンスコアに突入した。両者一步も譲らぬ攻防が続いたが、開始5分になろうとしたところで相手の隙をつき崩上四方固で抑え込み勝利した。吉岡2曹は、指導2つを受けて、これ以上指導を受けられない苦しい状況であったが、8分53秒という長時間の戦いを制し、第3位銅メダルを獲得した。

2日目、男子73kg級に出場した内村秀資（うちむらしゅうすけ）3等陸尉は、2回戦から出場し、一本勝ち【合わせ技（隅落、横四方固）】3回戦・一本勝ち【大外落】、4回戦・優勢勝ち【技あり（裏投）】と順調に勝ち上がり、準決勝も巴投で有効を奪い決勝進出を決めた。決勝の相手は田中選手（筑波大学）でこれまで何度も対戦しており互いに手の内を知り尽くしている。内村3尉は序盤から積極的に技を仕掛けるが決定打とはならず4分間が終了した。ゴールデンスコアに突入後、両者2つ目の指導が入るも拮抗した展開が続き、力と力のぶつかり合いとなったが、9分47秒に内村3尉が消極的と判断され3つ目の指導を受け反則負け、準優勝となった。正に死闘を繰り広げた一戦は実に13分47秒の息を飲む試合展開となり会場が釘付けとなった。



3等陸尉
内村 秀資

グランドスラム東京
出場権獲得